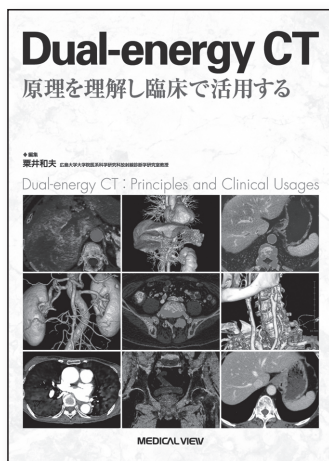


Dual-energy CT

原理を理解し臨床で活用する

精度の高い診断につなげるための基礎知識と使いこなし方

編集：栗井和夫



発行：メジカルビュー社
定価 本体 7,800 円+税
B5変型判, 236ページ, オールカラー
イラスト20点, 写真360点
2019年9月29日刊行
ISBN978-4-7583-1612-5

このたび、栗井和夫先生の編集されたDual-energy CTの本が上梓された。栗井先生は、早くからCTの基礎や造影法を専門の1つとされてきた。最近ではDual-energy CTや人工知能を用いた再構成法の研究にも携わるなど、常に先進的な研究に取り組まれている、日本を代表するCT研究者のお1人である。

Dual-energy CTは2010年くらいから臨床で応用されるようになってきたものの、広く普及するレベルにはまだ達していないのが現状である。その理由は、栗井先生ご自身が序文に書かれておられるように、Dual-energy CTの理論が従来のCTより難解であること、臨床的有用性の全体像を容易に理解できるような教科書があまりなかったことが挙げられる。本書は、Dual-energy CTの技術面をなるべくやさしく解説し、臨床の各領域での有用性を俯瞰的に述べていて、Dual-energy CTを理解するうえで最適の本といえる。

本書は基礎編と臨床編に分かれているが、随所によりよく理解してもらうための工夫と配慮がみられる。基礎編では、いずれのCTベンダーにも共通していることと、企業色のあるものが明確に分けて記載されている。そして、臨床編は、「Single-energy CTでできること」、「Dual-energy CTでできること」、「現状における課題」に分けて執筆されており、有用性を主張するだけでなく、限界もきちんと伝えていくという、筆者の医学に対する真摯な姿勢がよく反映されている。頭部、胸部、腹部、骨・関節とあらゆる領域が網羅されており、さらには本書を読むことで、仮想非造影CT画像、ヨードマップ、仮想単色X線画像の活用法に関しても一段と理解が深まる。

本書を読んで、放射線科医や診療放射線技師は、Dual-energy CTの適応を臨床医にわかりやすく伝えていただきたいと思う。また、各診療科の臨床医の先生にも、適応を知ってもらう観点からぜひ一読いただきたい。本書は診療・教育の場において広くお薦めできる本である。

慶應義塾大学医学部 放射線科学 教授 陣崎雅弘